

平成21年度「専修学校留学生総合支援プラン」成果報告書

事業名	アジアの玄関口・福岡の留学生就業促進プログラム		
法人名	学校法人 麻生塾		
学校名	麻生外語観光&製菓専門学校		
代表者	麻生 泰	担当者 連絡先	清崎 昭紀 092-415-2289
1. 事業の目的・概要等			
<p>留学生採用に関する企業の意識を聞き取り調査した。この結果に、既存調査の知見を加味して分析し、留学生の就職に有用な情報を抽出した。留学生が日本企業で活躍するための必要事項を明確にした。それを元に冊子作成、企業向けセミナー、留学生向けセミナーと企業実習を行なった。留学生のみならず企業向けにも理解促進を図った。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>企業ヒアリング 企業が留学生就業に関してどのような考えを持っているかを調査した。69社・事業所からの回答が得られた。これは専修学校をはじめとした留学生と教育機関職員に向けて、企業の考え方を理解することを目的に実施された。また、ヒアリングをお願いし、実施する過程で、多くの企業、特にまだ受け入れ実績のない企業が留学生採用を考えるきっかけを作ることができた。これは効果として数字にはできないが、我々が意図した受け入れ先企業の裾野を広げる運動をすることができた。</p>			
<p>講座内容 開設講座数 4講座 総授業時間数 一般・学生向けセミナー4時間×1、学校向け講義100分×3</p>			
<p>(内訳) 応募者数 (座学講座) 学校向け4校、一般・学生向けセミナー38名(当日受付含む) (インターンシップ) 10名。 受講者数 (座学講座) 一般・学生向けセミナー 30名 学生向け講座(3回実施) 67名 (実習) インターンシップ 8名 (座学・実習双方の参加者数) 4名</p>			

受講者満足度

4講座でアンケートを行なった結果、5段階評価で「大変満足」「満足」を選んだ人は全体の82.9%（回収80人中69人）。

企業担当者満足度

企業・学校教職員を対象に実施したガイダンスのアンケート結果では、5段階評価で「大変満足」「満足」を選んだ人は全体の80%（回収10人中8人）。

成果報告書提出時点における受講生就職状況

就職希望者8名／就職者数正規3名／非就職者5名

②受講者の募集方法（手法・期間・効果）

学校法人麻生塾の教職員を通して口頭で学生へ直接告知。就職活動予定の留学生12人中7名のセミナー受講、8名のインターンシップ参加があった。

福岡県内で留学生のいる専門学校15校の留学生担当者へセミナー・インターンシップの案内状を郵送。2校から問い合わせがあり、2名がセミナーに参加。福岡市を中心に、専門学校・日本語学校39校へ学生向けの講座実施案内状郵送。4校から問い合わせがあり、3校で67名に向けて講座を実施。

福岡県留学生サポートセンター、レインボープラザ（福岡市外郭団体運営）でセミナー・インターンシップのチラシ設置（12月～1月）。福岡商工会議所、福岡県のウェブサイトを通じてセミナー・インターンシップの告知（12月～1月）。企業ヒアリングを行った企業へセミナー・インターンシップ受け入れの案内状郵送（65件）。協力校の取引先・関係機関へのセミナー案内状郵送（105件）。これらに対して数十件の問い合わせがあり、13名がセミナー申し込み。そのうち参加は7名であった。

③受講者の状況

企業・学生セミナー

1月30日 計30名（企業10名、学校関係者11名、学生9名）

学生向け講義

1月13日 福岡市内の日本語学校。受講者18名。韓国人、中国人、台湾人が同数程度、欧米系、東南アジア系なども交じり比較的多様性に富む構成。

1月27日 福岡市内の専門学校。受講者26名。中国人が大半を占める。

2月25日 北九州市内の専門学校・日本語学校併設校。受講者23名。中国語話者が中心、東アジアやヨーロッパの出身者も参加。

インターンシップ

専門学校3校に在籍する留学生8名が参加。これらの参加者のうち7名が事前に生活支援アドバイザーの面談、インターンシップ事前研修を受けた。

④受講者・企業の意識調査等

	学校向け講座のアンケート			ガイダンスアンケート	
	1月13日	1月27日	2月25日	1月30日	
				学生	企業
大変満足	7	9	15	7	4
満足	7	10	6	0	4
普通	4	3	2	0	1
不満	0	4	0	0	1
大変不満	0	0	0	0	0
計	18	26	23	7	10

⑤受講後の状況（修了者数・就職率）

生活支援アドバイザー面談、就職ガイダンス、インターンシップの全てを受講した学生は5名。ガイダンスまたは学校向け講座の受講者総数は97名。

今回参加した学生は就職活動が始める直前の者がほとんどである。このプログラムは就職活動前の学生が準備する支援を行ったため、内定数などの数字には反映されない。

3. 事業の評価に関する項目

①当初目的の達成状況

69社へのヒアリング実施。予定の50社よりも多くの企業から話を聞くことができた。このデータを活用しながら、学生、企業に向けての講座実施、冊子作成を行った。冊子は当初予定の学生・企業に向けて各500冊以上を印刷、配布できた。

②事業の成果及び改善点

企業へのヒアリング結果を企業向け、学生向けの冊子にまとめた。

企業・学生向けガイダンスは、企業担当者および元留学生合わせて3名による講演、ヒアリング分析内容の発表、ディスカッションと非常に内容の濃いものであったが、さらに多くの参加を促し、情報伝達を1人でも多くの方に図っていくべきであった。

③次年度以降における課題・展開

長期就労を希望する企業が多い一方、それにはこだわらず、元留学生が3年未満で帰国した後も日本企業との協力体制を維持し、その国の拠点の役割を果たすことによってよい関係を保っている雇用例が見られた。国内での就業にこだわらずに相互の利益を一致させていくこれらのような例の情報収集を行ない、日本国内活用例との比較を行なうなど、

多様で弾力的な活用例を学生・企業に啓蒙していくことが留学生雇用の枠を広げていくために重要なのではないか。

④成果の普及

企業向け、および留学生向けセミナーを4ヶ所で開催。企業・学校関係者向けセミナーでは、30名の企業関係者、学校教職員、学生と講演者が膝を交えて情報共有する機会を作った。学生向け講座は3校で開催し、就職活動および就業時に重要なことを実感してもらうことができた。

学校関係者・企業担当者を対象にした冊子を1000部作成し、ヒアリング協力先、学校教職員をはじめ、当校就職課や実施委員の所属機関から関係機関などへ配布した。

学生向けの冊子を7000部作成し、九州を中心とした地区の留学生、就学生に学校単位で配布。専修学校1620冊、短期大学165冊、大学2335冊、日本語学校1170冊、高等専門学校60冊、その他国際交流団体などを通じて学生へ1650冊を配布。